



大学新入生のSDGsの 学習経験と意識に関する調査 結果報告

大学SDGs研究会

2024年6月20日

調査の概要



- **調査目的**：大学新入生のSDGsに関する教育や活動の経験と意識を明らかにする。
- **調査時期**：2024年4月25日～5月31日
- **調査対象**：新入生（関東と関西の5大学在籍、2024年3月に高校卒業）
- **有効回答**：2,073人（男783人、女1,290人）
- **調査方法**：Google Forms
- **調査内容**：
 - ・SDGsに関する知識・関心・行動
 - ・SDGs教育の経験（高校での授業、総合的探求、課外・校外活動、志望校選択）
 - ・大学への期待（大学の環境、授業、課外活動）
- **研究倫理審査**：文教大学国際学部研究倫理審査委員会承認（承認番号05-02）

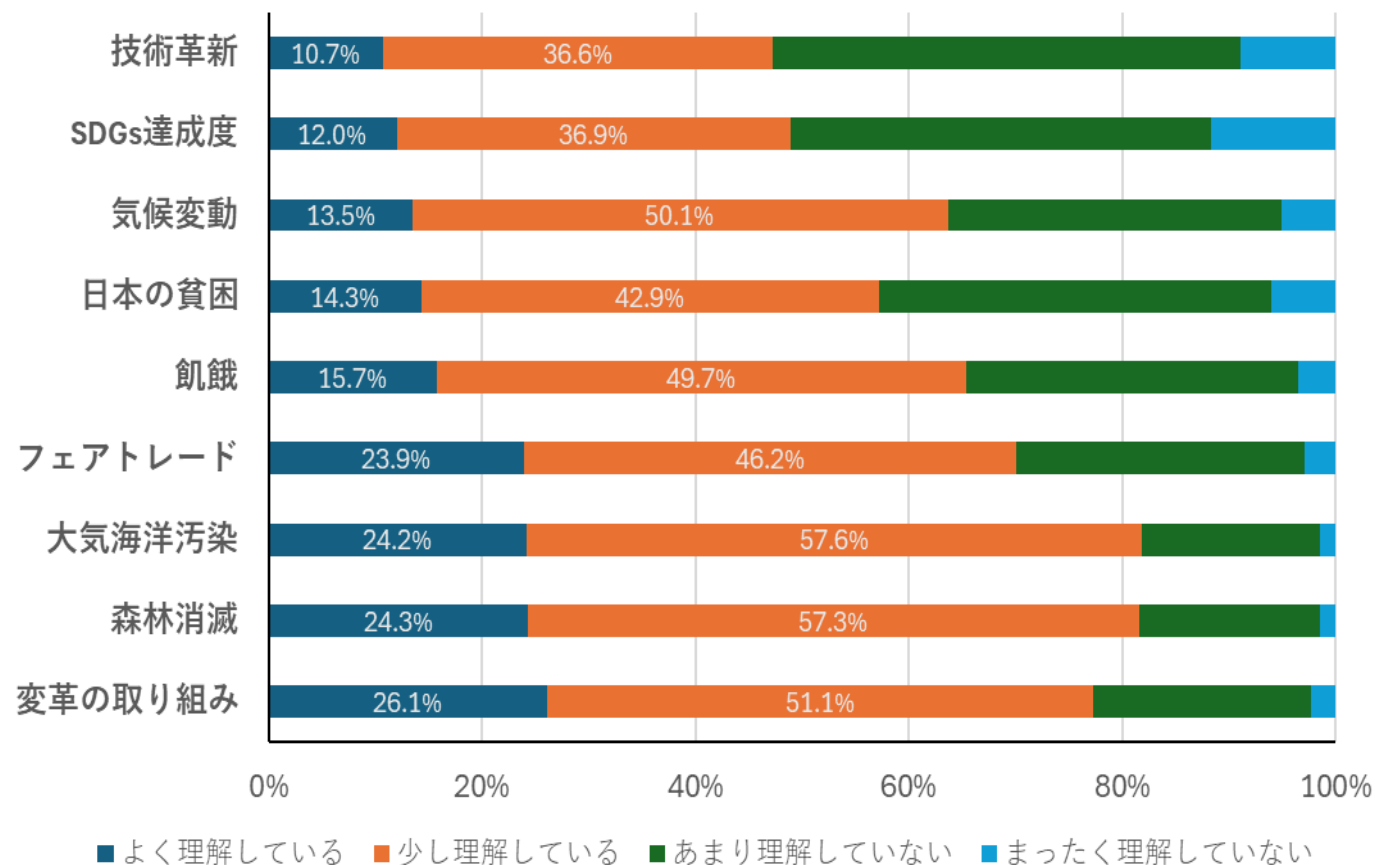
調査結果の概要

- 世界の状況に関する知識やSDGs達成に資する行動は項目によってまちまち。
- SDGsについて、総合的探求の時間で学習した経験を持つ学生は約75%、課外活動や校外活動の経験を持つ学生は約21%。
- 大学受験勉強としてSDGsについて勉強した学生は約16%であるが、志望校選択の際にSDGsのことを考慮した学生は約8%。
- SDGsについて、大学の授業で学びたい学生は約35%、課外活動・ボランティア活動を行いたい学生は約30%、ソーシャルビジネスに関心のある学生は約60%。

問合せ先：小林勝法（文教大学）
kappo@bunkyo.ac.jp

世界の状況についての理解は 約50%～約80%

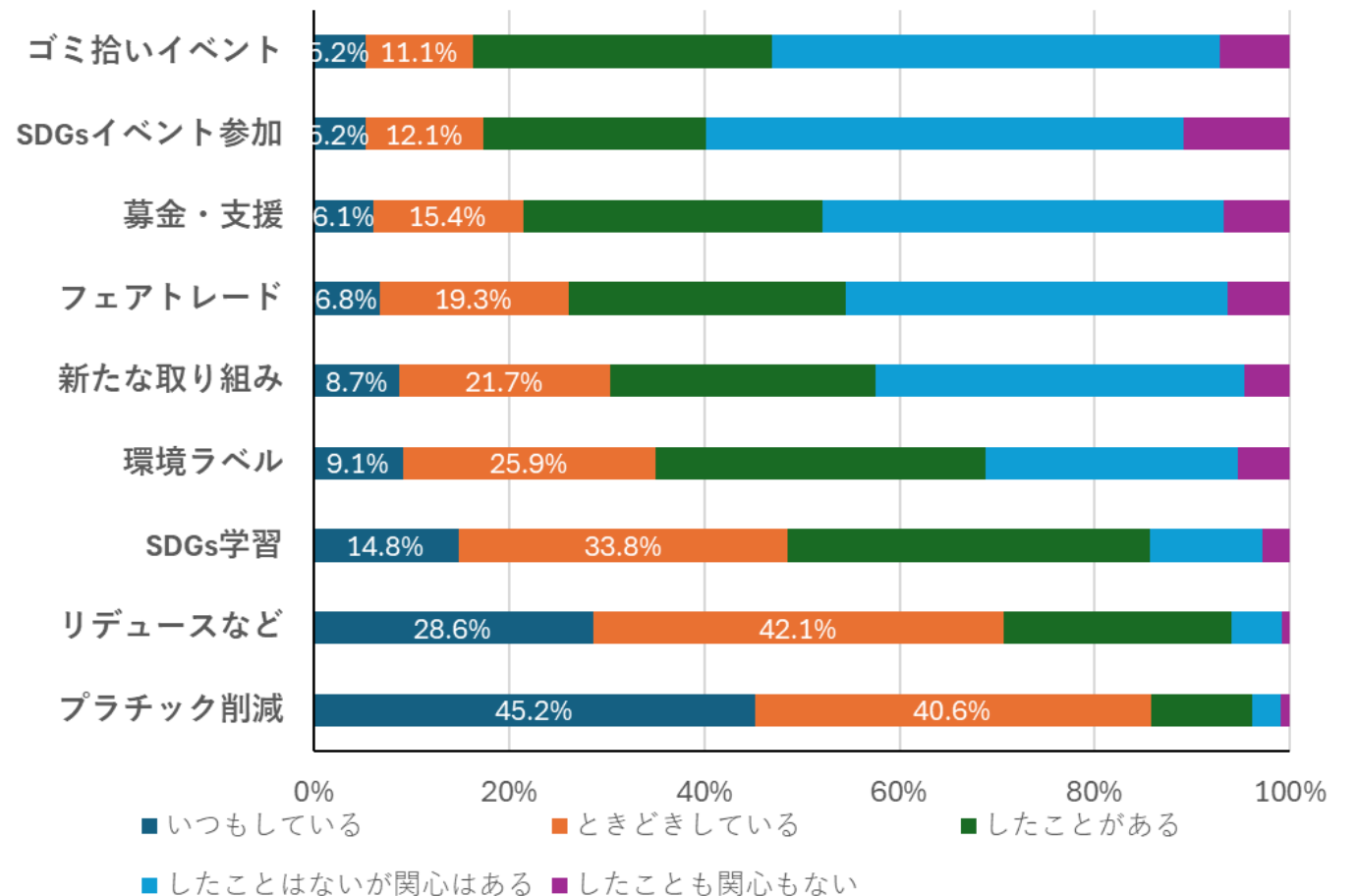
「大気汚染や海洋汚染の原因や影響」や「森林が消滅する理由と影響」は理解している回答が多く約80%であったのに対し、「世界の問題を解決するための技術革新」や「日本のSDGsの達成度や内容」は約50%であった。



SDGs達成に資する行為については「プラスチック削減」最も多く約85%

「いつもしている」と「ときどきしている」の解答を合わせると、最も多いのは「マイバッグやマイボトルの持参、簡易包装などプラスチック削減につながる行動」で85.8%であった。次いで「リデュース、リユース、リサイクル、リペアなど」が70.7%であった。

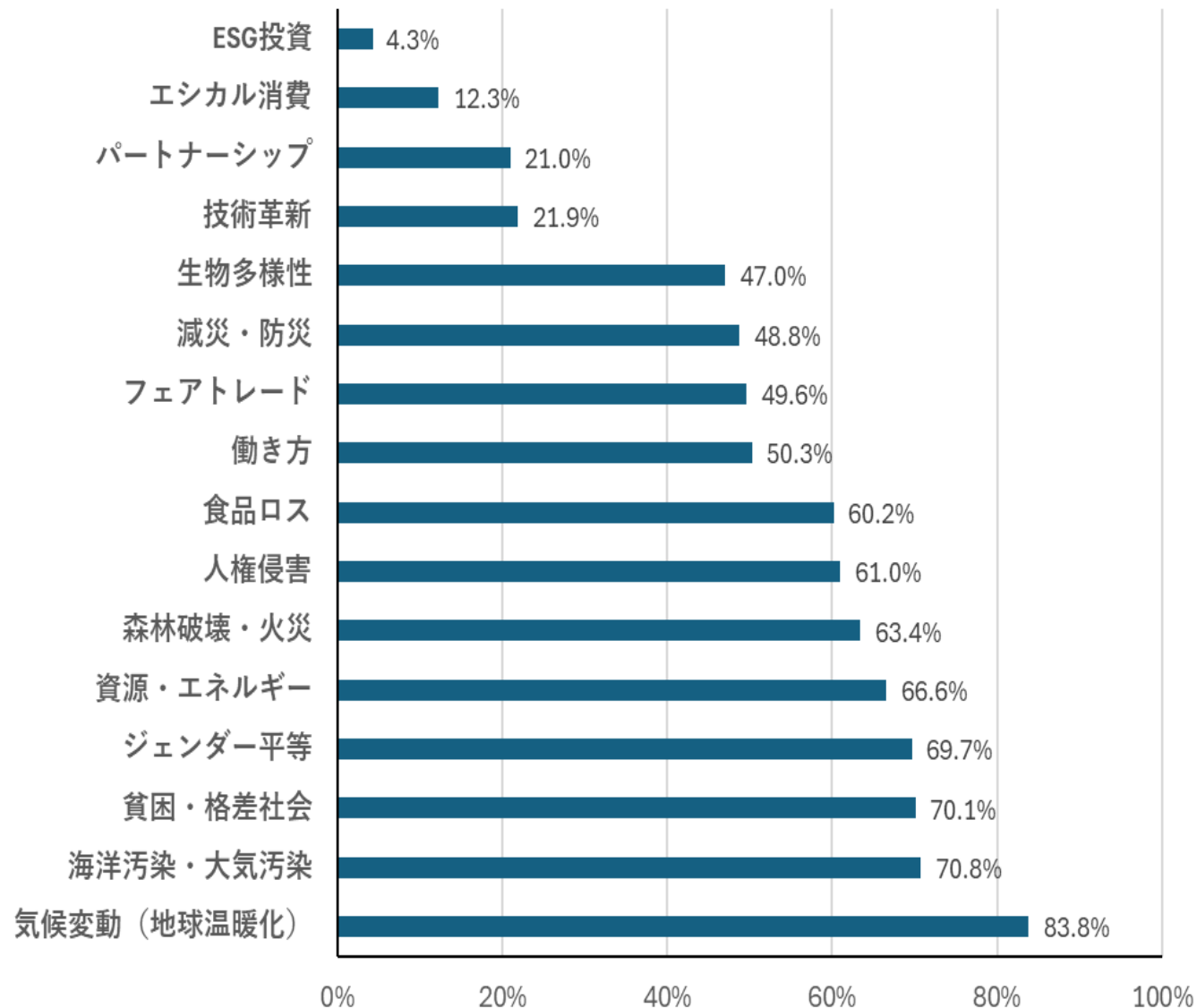
「したことはないが関心はある」の回答で多かったのは「SDGs関連イベント参加」(48.9%)、「ゴミ拾いイベント参加」(45.9%)であった。



高校の授業で学んだ内容

回答が最も多かったのは「気候変動（地球温暖化）」（83.8%）で、次いで「海洋汚染・大気汚染」（70.8%）、「貧困・格差社会」（70.1%）であった。

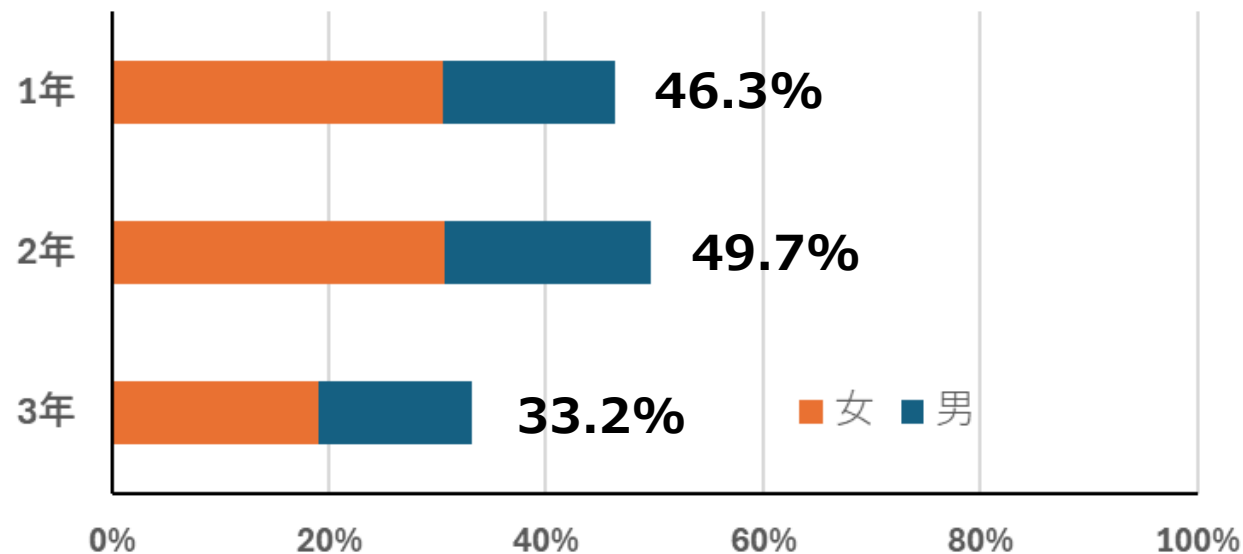
「ESG投資」（4.3%）や「エシカル消費」（12.3%）、「パートナーシップ」（21.0%）、「技術革新」（21.9%）は少なかった。



総合的探求の時間で、SDGsについて学習した経験を持つ学生は約75%

総合的探求の時間でSDGsについて学んだ経験は、1年次が46.3%、2年次が49.7%、3年次が33.2%であった。3年間通して1度も学んでいないが学生は24.4%であった。約75%の学生が何らかの学習経験を持っていた。

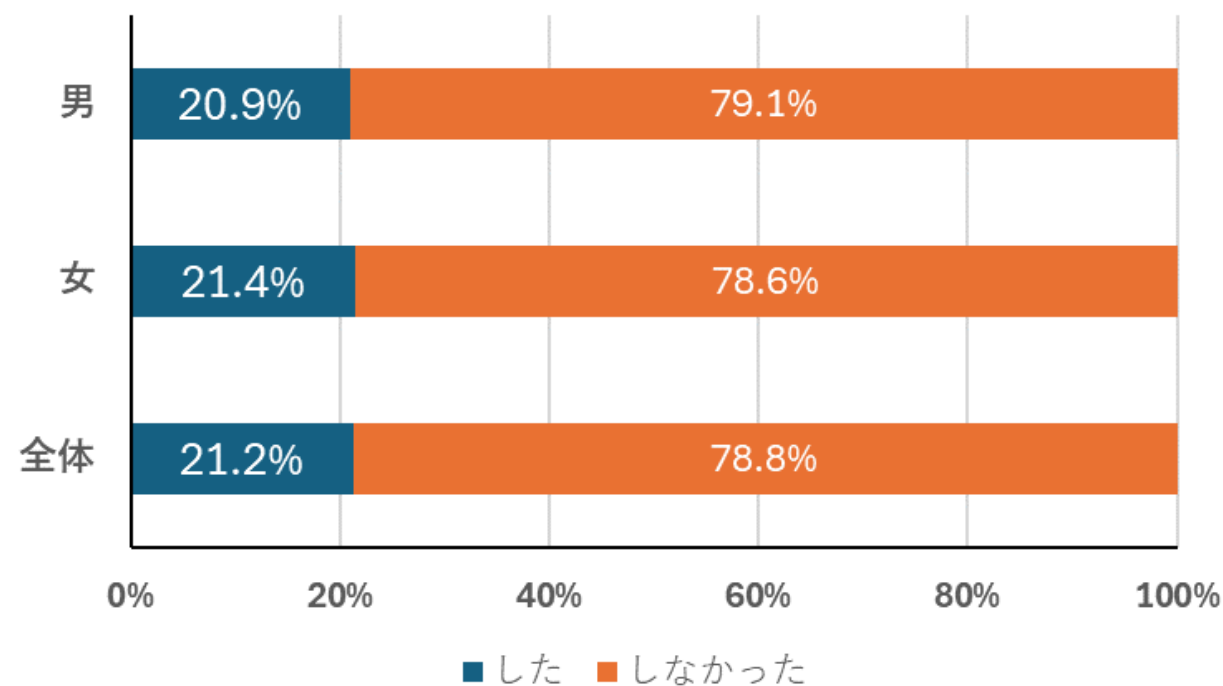
学んだ内容は、SDGsの意義や目標全般のほか、特定のテーマを回答した学生が多かった。



課外活動や校外活動でSDGsに関する活動経験を持つ学生は約21%

課外活動や校外活動でSDGsに関する活動をした経験を持つ学生は約21%であった。男性が20.9%、女性が21.4%で同程度であった。

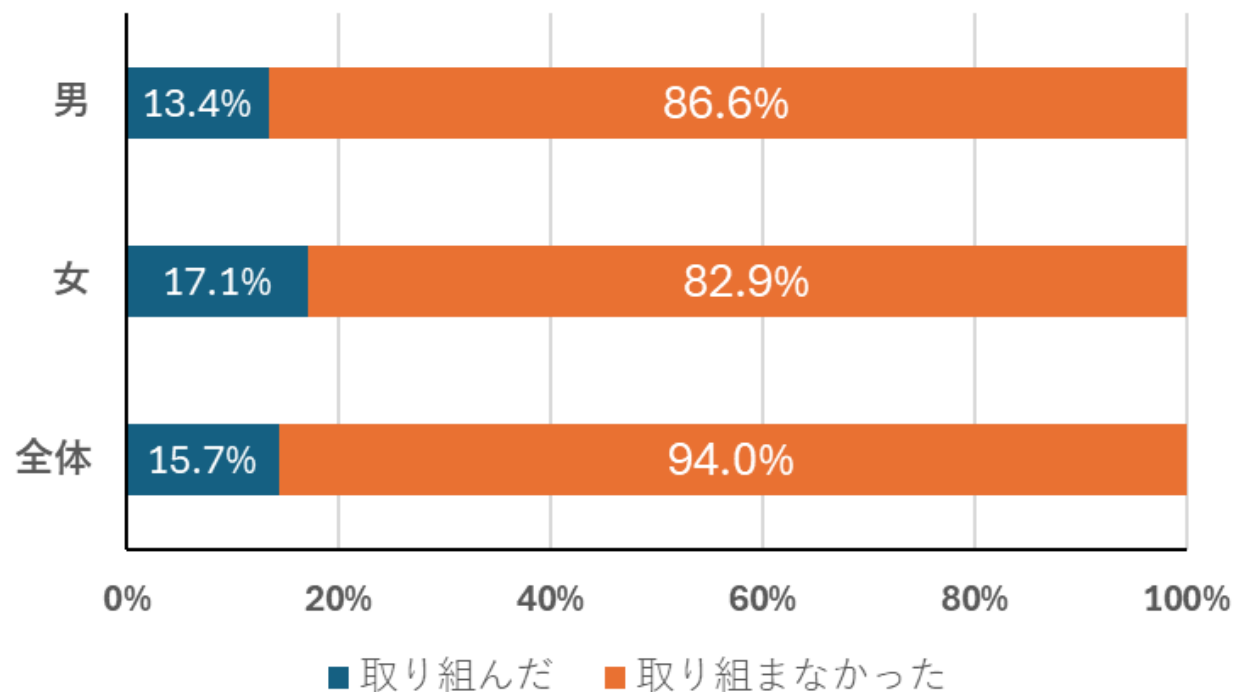
具体的には「清掃活動」や「フェアトレード」、「子ども食堂」、「国際交流」、「商品開発」が多かった。「SDGs部で活動していた」という回答もあった。



大学受験勉強として、SDGsについて勉強した学生は約16%

大学進学を受験勉強として、SDGsについて勉強したり、入試課題に取り組んだりした学生は約16%であった。男性が13.4%、女性が17.1%で同程度であった。

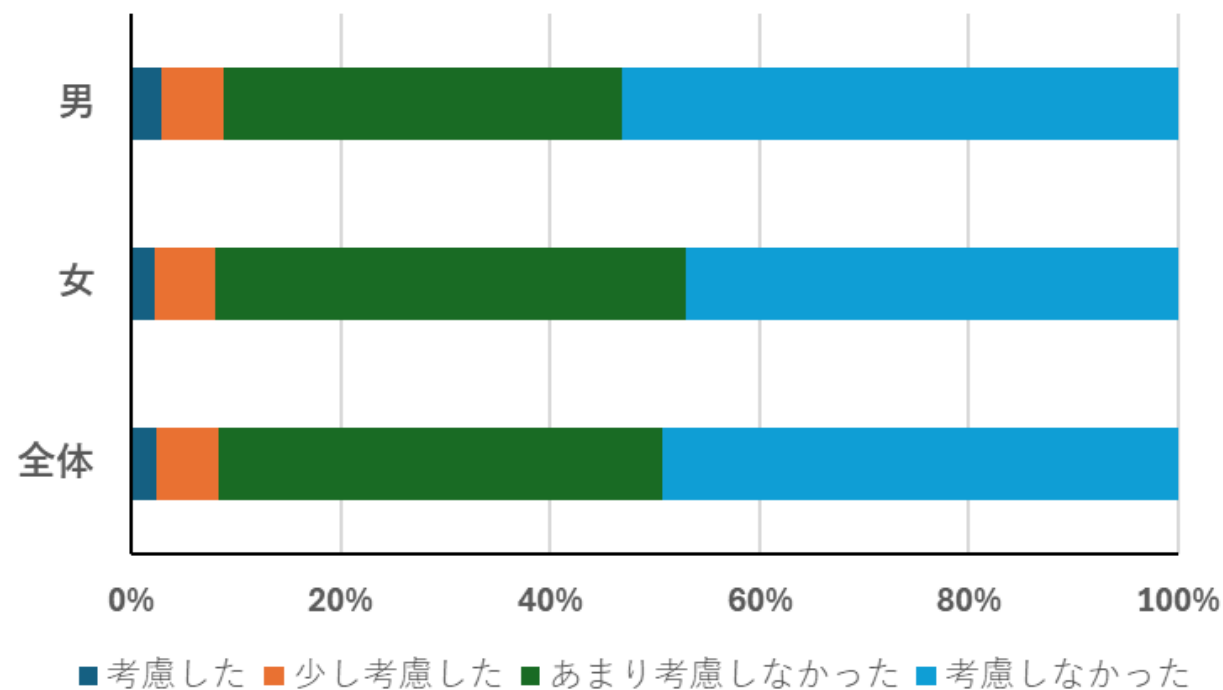
具体的には、「総合型選抜」や「小論文対策」などであった。



大学進学の際にSDGsのことを考慮した学生は約8%

大学進学の際に、SDGsのことを「考慮した」「少し考慮した」を合わせると8.3%であった。男性は8.8%、女性は8.0%であった。

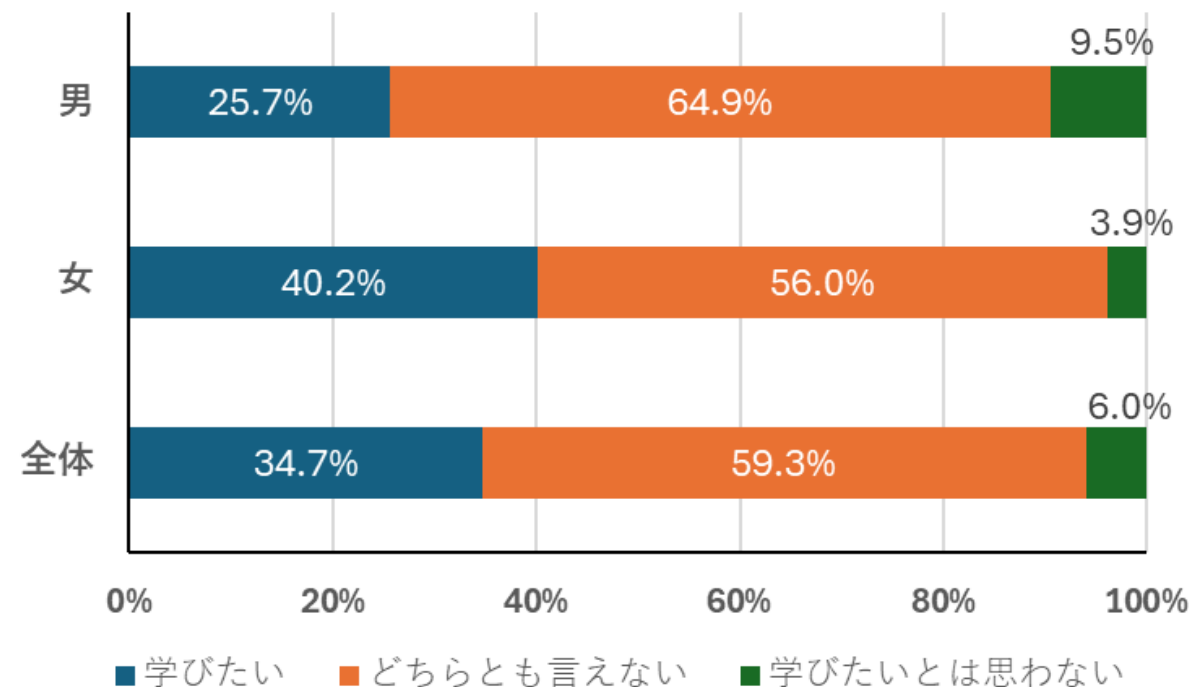
具体的には、開講している授業科目や学生のボランティア活動、大学のSDGsの取り組みを調べたりしたとの回答が多く見られた。



大学の授業でSDGsについて 学びたい学生は約35%

大学の授業でSDGsについて「学びたい」と回答した学生は約35%であった。男性は25.7%、女性は40.2%で、男女間で大きな開きがあった。

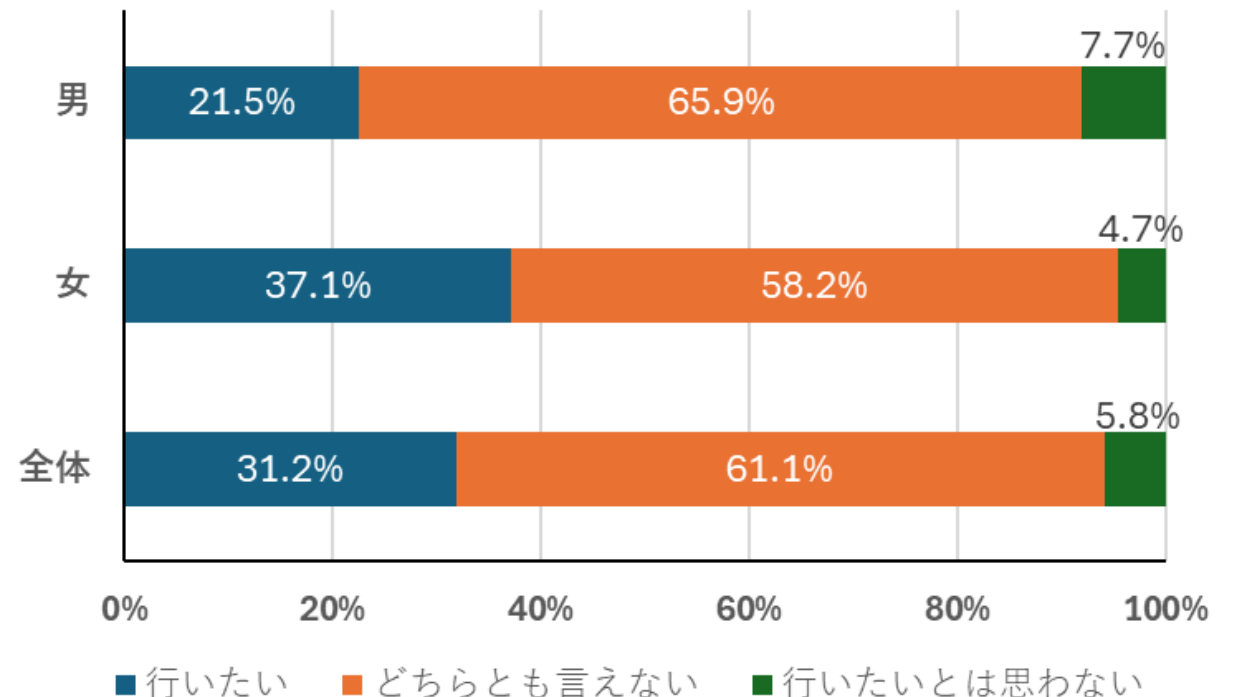
具体的には、SDGsの17目標のそれぞれやSDGsそのものや達成状況などの回答が見られた。



大学の課外活動・ボランティア活動でSDGsに関することを行いたい学生は約30%

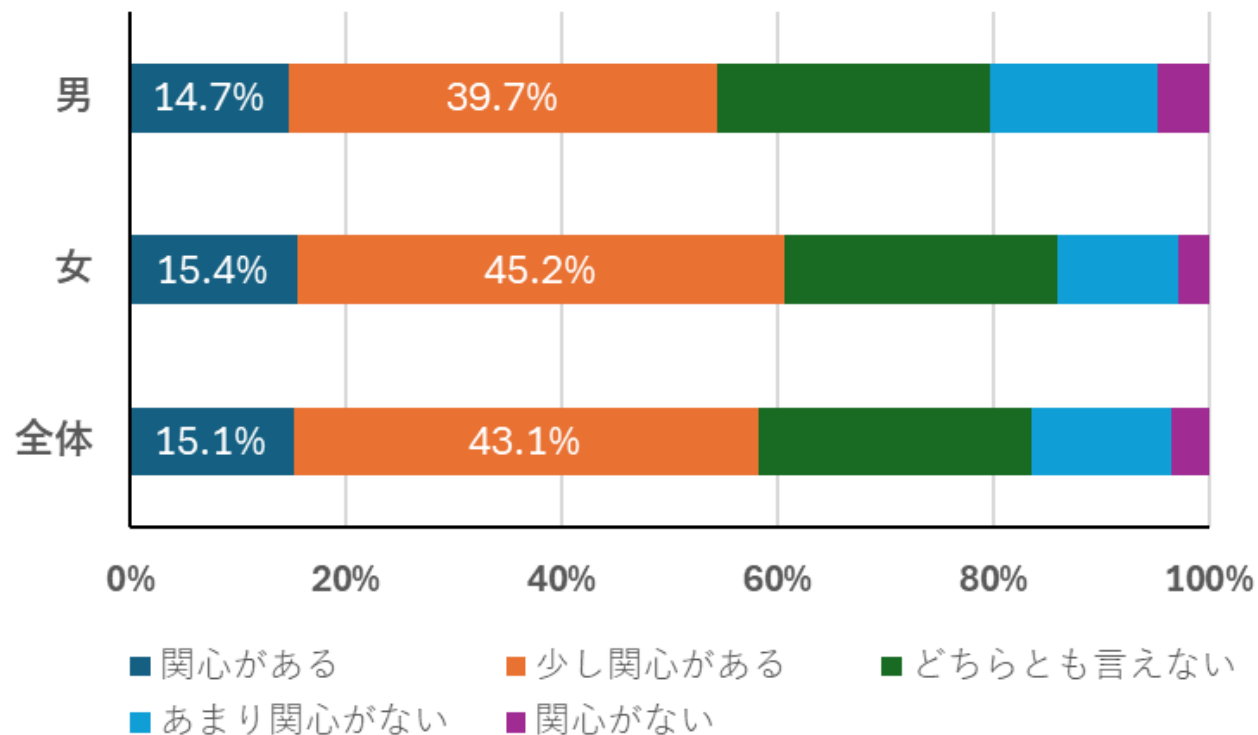
大学の課外活動・ボランティア活動でSDGsに関することを「行いたい」と回答した学生は約31%であった。男性は21.5%、女性は37.1%で、男女間で大きな開きがあった。

具体的には、「清掃活動」（海や川も）、「食品ロス削減」、「環境保護」、「リサイクル」、「フェアトレード」、「性の多様性」、「貧困問題」（子ども食堂）、「募金活動」、「学習支援」、「海外ボランティア」などで多種多様であった。



ソーシャルビジネスに関心のある学生は約60%

「社会的課題を公共事業やボランティアではなく、ビジネスの手法で解決する事業があり、ソーシャルビジネスと呼ばれていますが、これに関心がありますか。」との問いに対して、「関心がある」と「少し関心がある」の回答を合わせると58.2%であった。男性は54.4%、女性は60.6%で、同程度であった。



大学SDGs研究会

代表：小林勝法（文教大学）

出光直樹（横浜市立大学）、飯吉弘子（大阪公立大学）

平工志穂（東京女子大学）、北徹朗（武蔵野美術大学）

加藤毅（筑波大学）、江原昭博（関西学院大学）

成田秀夫（桐蔭横浜大学）